

あけまして、おめでとうございます。

お陰様で当院も開院後 18 年目を迎えました。この間、少子・高齢化社会の進展に伴い、医療の内容も変化してきました。小児科としての大きな変化は予防接種が挙げられます。ワクチンで防ぐことができる病気はワクチン接種しようという考えが浸透してきました。実際に、重症の病気は減少しています。これからも、予防接種制度は充実していくはずですが、ワクチン後進国の汚名は返上です。内科領域では、高齢化とともに認知症の問題がクローズアップされてきました。病院よりも地域の施設であるいは在宅でお年寄りを看ていくという方向性ができあがり、医療と介護との緊密な連携がますます必要となってきました。当院では、近隣の病院・診療所・介護施設との連携を深めて皆さまのニーズに合った医療・介護サービスを提供していけるよう努力を続けていきます。



[最近目立つ病気]

年末からアデノウイルス感染症が目立っています。高熱が 4～5 日続くため心配な感染症です。しかし、高熱のわりには食欲も保たれ元気なことが多いです。治療は対症療法しかありませんが診断がつけば、経過が予想できるため咽頭ぬぐい液を用いて迅速検査します。もともとは夏に流行する感染症でしたが、最近では 1 年中みられるようになりました。

乳幼児で重症化しやすい RS ウィルス感染症が昨夏からずっと流行中です。乳幼児が高熱、激しい咳、鼻づまり、ゼイゼイという呼吸といった症状の場合に疑われます。肺炎の合併がないか血液検査やレントゲン写真を撮る場合があります。

ウィルス性胃腸炎が例年どおり、増加しています。この季節の主要なウィルスはノロウィルスです。あまり用いたくない名前ですが、社会的に定着してしまったので野呂さんたちに申し訳ありませんが使います。小児から大人まで全年齢でかかります。ロタウィルスよりも免疫がつきにくいようで、何度もかかります。大人になっても症状の重い人がみられます。高齢者施設で亡くなるという記事が新聞に出ることがありますが、もともと脱水状態の方が嘔吐・下痢により高度な脱水となったり、嘔吐物を喉に詰まらせたりするのが原因です。健康な小児や成人では、水分摂取に気をつけていれば心配りません。

溶連菌感染症も目立ってきました。1 年中ありますが、寒くなると増えてきます。発熱の程度は様々です。喉の強い痛みがある場合は要注意です。発疹、かゆみが出る場合もあります。

インフルエンザも散見されます。検出されるのは A 型で、A 香港型とのことです。例年どおりの状況で、1 月中旬から流行がはじまりそうです。

[アデノウイルス感染症]

ヒトに感染するアデノウイルスは現在約 50 種類が知られており、A-F の 6 群に分類されています。潜伏期間は 1 週間前後で、感染経路は飛沫感染、接触感染や経口感染です。感

染力は強く種類が多いので何度もかかる可能性があります。

全身のいろいろな臓器に感染し、肺炎・咽頭結膜熱（プール熱）・急性扁桃炎・流行性角結膜炎・急性濾胞性結膜炎・出血性膀胱炎・胃腸炎などの病気を惹き起こします。

治療は特異的なものではなく、対症療法で経過をみます。咽頭結膜熱や扁桃炎の場合は解熱後 2 日間は感染力がありますので、自宅安静を続けてください。

[B 型肝炎ウイルス]

主に血液・体液を介して感染します。B 型肝炎の主な感染ルートは母子間（垂直感染）でしたが、B 型肝炎キャリアの母親から生まれてきた児に対し、公費負担によるワクチン接種開始後、母子感染は激減しました。また、感染対策の徹底により輸血等、医療行為による感染はほとんどなくなりました。

B 型肝炎ウイルスが免疫機能が正常な成人に感染した場合、まれな劇症化を除きほとんどが治癒します。しかし、近年わが国では健康成人が感染しても慢性化しやすい欧米型の B 型肝炎（ジェノタイプ A）が、特に性行為等により増加しています。また、感染者の涙や汗にも B 型肝炎ウイルスが分泌されることが知られており水平感染には未解明な部分もあります。

ワクチン接種によって、キャリア化しやすい小児期の感染を防ぐ目的で、多くの国や地域ですべての児にワクチンを接種する「ユニバーサルワクチネーション」が導入されています。1991 年からユニバーサルワクチネーションを実施しているアメリカやイタリアは B 型肝炎の減少に大きな効果をあげています。わが国は現在、母子感染予防の「セレクトティブワクチネーション」ですが、早期にユニバーサル化を実現すべきです。

B 型肝炎ワクチンは任意接種で 1 回につき 4000 円で、合計 3 回（1 ヶ月間隔で 2 回、その後半年で 3 回め）の接種が必要です。当院でも、家族内に B 型肝炎やキャリアの方がいる場合はもちろん家族内にリスクのない場合でもワクチン接種をお勧めし

ます。

[ワクチン最新事情]

平成 25 年 12 月 25 日の朝日新聞の記事によると『水痘（水ぼうそう）の小児用ワクチンと、高齢者の肺炎を予防する肺炎球菌ワクチンを予防接種法に基づき自治体を実施する定期接種に加えることを決めた。水痘ワクチンは、多くの自治体で無料で受けられる見通し。来年秋からの実施を目指す。対象は 1～2 歳で、6 か月以上の間隔で 2 回接種する。

肺炎球菌ワクチンは 65 歳以上を対象。高齢者の肺炎の原因の多くを占めることから、接種の努力義務のない「B 類」に位置づけて予防を促す。最初の 5 年間は対象を 65、70、75 歳など 5 歳刻みとし、5 年以内に 1 回接種できるようにする。接種費用は、同じ B 類の高齢者向けインフルエンザワクチンと同様、多くの自治体で一定の自己負担が求められる見通し。』

MEMO



☆大手町の夜間急病診療所 (Tel:222-0099) では午後 7 時から 11 時まで、小児科と内科の診療を年中無休で行っています。加畑の担当は 2/2・3/30 の予定です。また、1/13・3/16 は当番医です。

☆金沢市では幼児期の任意接種のワクチン（水痘・おたふくかぜ・インフルエンザ）についての助成金制度を行っています。詳細は受付でお尋ね下さい。

☆臨時休診

2 月 4 日（火）5 日（水）：加畑院長が下肢静脈瘤の手術を受けるため休診します。ご迷惑をおかけします。よろしくお願いいたします。

☆世界の宝「憲法 9 条」を次の世代に贈りましょう。

